

根々崎

ねねざき



この下あたりに眠る古代の住居跡

四万十川を挟んで西川角の対岸に位置する根々崎地区は、世帯数6、人口20人の小さな集落である。ここで、古代の集落跡が発見された。根々崎遺跡である。この遺跡が最初に発見されたのは古く、1657年というから、江戸時代である。当時、新田開発のための水路を掘っていたところ、5本の銅矛が発見された。その銅矛は、発掘直後に高岡神社（五社さん）に奉納され、現在でも秋祭りの時に「幸の広矛」として神輿を先導する。ただ、残念ながら傷みが激しいのだという。以前ご紹介した作屋地区にある西ノ川口遺跡でも、5本の銅矛が見つかっていて、弥生時代には、この辺り一帯で銅矛5本を一組にした祭祀形態があったのではないかとされている。

集落跡などは近代になってからの発掘で発見されたようである。今は水田となつてはいるが、発掘調査が終わった後、地中に保存することができるよう、砂を使って丁寧に埋め戻されているため、現在、青々と育つ稲の下には、遙か昔の住居の土台が残り、弥生人の息づかいを脈々と残し続けている。

この地区の氏神さまは礫石神社（うしろのやま「後口山」の裾野にある。境内に行くといくわが、辺りに大きな石がごろりごろりと転がっていたり、山の斜面にむき出していたりする。「つづて（礫）」といえは小石、石ころのことであるが、ここに散在しているのは、小石とはいえない大きな石で、岩と言っても良いくらいの立派なものである。詳しいことはわからないが、おそらくこれらの岩のことを「礫石」と呼んで祀ったのであろう。



礫石神社

さて、この地区はどういうわけか、町内の他の地区に見られるような人口の減少があまり見られない。江戸初期の記録を見ると、戸数6、人口27とある。何と、現在とほぼ同じなのである。山の奥深くにある集落と違って平坦で、街に近く、比較的利便な立地であるということによるのではないかと思われる。こじんまりとまとまり、日当たりも良く、学校に近く、高速道路のインターチェンジも近い、まことに住みやすそうな立地である。

町のうごき	(5月31日)		前月比	出生 死亡 転入 転出			
	男	女		男	女	計	計
	8,742	9,861	-14	5	12	12	19
			-8	4	16	15	11
	18,603		-22	9	28	27	30
	世帯数	8,719	-3	(5月中の届出)			

四万十川の 水質状況	適正值(mg/l)	
		6月9日
リン酸	≤ 5.0	0.094
硝酸	≤ 0.5	0.372
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.500
化学的酸素消費量	≤ 10.0	測定範囲以上

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)